

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正有無
1	26	<p>一例として、表6「1幸手市の特性を活かした観光振興」における権現堂堤の観光客数について申し上げます。</p> <p>当初値207.9万人、目標値230万人に対し、令和6年度実績値は86.3万人と大きく乖離していますが、評価としては「未達成」と記載されているのみで、その要因分析が示されていません。</p> <p>にもかかわらず、第3期総合戦略（P42）では、令和6年度実績である86.3万人を基準とした新たな目標が設定されています。</p> <p>未達成となった理由や、外的要因・施策内容の妥当性に関する検証が示されないまま、実績値を新たな起点として目標を再設定することは、計画の検証責任の観点から疑問が残ります。</p> <p>目標の再設定にあたっては、未達成となった要因を明らかにした上で、どのような改善や方針転換を行うのかを示すことが、市民の理解と納得を得るために不可欠であると考えます。</p>	<p>第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」という。）の数値目標・KPIや取組内容については、幸手市人口問題対策会議にて現状把握・課題分析を行い、幸手市まち・ひと・しごと創生市民会議にて、有識者等から意見を聴取しております。</p> <p>具体的には、数値目標・KPIや取組内容について、毎年の振り返りを行っているほか、「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」（以下、「本素案」という。）作成の際、第2期総合戦略の計画期間全体の振り返りを行っております。</p> <p>未達成となった数値目標・KPIについては、未達成の理由や、課題点等を分析した上で、本素案に反映しております。</p> <p>なお、振り返りの結果については、市ホームページ「幸手市人口問題対策会議」「幸手市まち・ひと・しごと創生市民会議」のページに資料を掲載いたします。</p>	無
2	38	<p>基本目標1 施策1 新たな雇用の創出</p> <p>空き店舗活用数 目標値 年間3件とするが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【評価指標】市の人口ビジョンおよび産業構造等から、第3期期間は民間資産は流動化が進むことが想定される。相続や業種転換等を推測すると、もう少し空き店舗活用支援は件数増が必要ではないか。 ・【取組内容】②は、過程（マッチング事案件数 等）に視点を置く。各課に「数を打つ」ことを奨励することで、取組の広角化を促し、時代に合わせた発想の転換を求める。例として、・・・コミュニティ活性化に向けたマッチング等の促進 と具体的に表記する。 ・【取組内容】①市内事業者への雇用促進 とあるが、第2期では市内従業者数目標は未達成であった。どのような取り組みが有効だったのか。伸びしろのある取組を具体的に表記できないか。 	<p>本指標（空き店舗活用数）は、中心市街地の活性化に資するため、商工会が事業主体となり決定した事業に対し補助を行なっている件数を指標としております。</p> <p>空き店舗活用支援の件数増については、市内中心市街地は宿場町の名残で、長屋の店舗兼住宅となっているため、店舗としては閉業しているものの、住居としては引き続き使用されていることから、件数を増やすことは難しいものと考えております。</p> <p>取組内容②については、「創業支援」の中にもマッチングも含まれるものと考えます。</p> <p>取組内容①については、雇用促進（案内・つなぐ）はできるが、雇用につながる具体的な取り組みに関しては、事業者からの相談に応じて支援してまいります。なお、第2期の振り返り結果については、意見No.1に記載のとおりです。</p>	無

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
3	40	<p>基本目標1施策3 地域農業の推進 【取組内容】①安定した農業経営のための支援 とあるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②～⑥以外の支援とは具体的に何を指すのか。 第3期戦略でフォーカスすべきポイントは具体的に表記する。例えば、収入のブレを抑える支援 (収入保険・農業共済への加入促進で価格変動や天候リスクへの備えを伴走) 固定費を下げる支援(農業用機械や施設などの共同整備を支援) 半農・半Xの受け皿づくり支援(兼業・週末農業の就農モデル構築を支援) <p>公共調達の活用支援(学校給食・保育所・公共施設での地元農産物使用の機会創出)</p> <p>(→市が安定的な買い手となる仕組みで生産の数量・継続性を支える) など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑦に、・・・農業体験の機会の充実 とあるが、第3期取組ターゲットは人手不足対応？ <p>体験機会の充実も必要だが、これだけでは新時代に向けた戦略性や施策のアップデートが感じられない。時代を俯瞰すると、特に、繁忙期の労働力マッチングやシルバー人材・学生・地域住民の活用などで、農業経営者が必要な時に、労働提供者も安心して来てもらえる地域型労働モデルの仕組みづくりが市の役割と考えられる。小さな労働環境提供と生きがいきづくり、情報発信のデジタル化などを支援する取組を具体的に進めてほしい。表記できないか。</p> <p>※幸手市の基幹産業である商工業、農業の新たなモデル構築に期待。 商工業、農業の継承は、幸手市の財政、市民の収入・資産活用に係る際たる政策課題である。最近の中間管理機構を仲介とする農のマッチング事業の推進は大いに評価するものである。今後はさらに、少子高齢化、人口減少、社会構造の変化に負けない商工農従事者の「生活環境」づくりを具体的デザインとして見える化する。抽象的な表現ではなく、第2期までの成果は拡大、摘み残しは成果にする取組を。これが第3期の命題であり、全国どこでも通用する表記ではなく、「我がまち」幸手の特徴を表記に。</p>	<p>市では、安定した農業経営のための具体的な支援施策として、市内農業者の共同利用に供する穀物乾燥調製施設(ライスセンター)の運営経費に対する補助や気軽に農業体験ができるふれあい農園の整備、学校給食における幸手産米の100%利用、幸手産米を使用する市内の保育園・病院に対する補助などについて取り組んでおります。</p> <p>また、小さな労働環境提供と生きがいきづくりに関する支援、情報発信のデジタル化などの支援については、施策2の「多様な働き方への支援」及び基本目標4「安心・快適に暮らすことができる、魅力的な地域をつくる」の施策4の「デジタル技術による質の高い行政サービスの提供」に掲げる各施策との連携強化を図りながら、総合的に取り組んでまいります。</p> <p>さらに、社会構造の変化などに左右されない強い農業構造への転換を推進し、農業の新たなモデルを構築するため、市では、農地中間管理機構などを活用した農地の集積、集約化に努めているところです。その結果、本総合戦略のKPIに掲げる農地の利用集積面積については、第2期の実績では大幅に目標を上回ったことから、第3期の目標では更なる集積目標を設定いたしました。その目標の確実な実現を図るため、第3期の施策では農業生産法人等の誘致及びは場整備の推進に関する取組を新たに加えました。</p> <p>なお、本戦略については、将来にわたって活力ある幸手市を維持していただくためのまちづくりに関する指針であり、大枠の方向性について記載しているものであるため、原案のとおりといたします。頂いた御意見については、市内の生産者などからの要望や意見等を踏まえて、今後の事業実施に当たっての参考とさせていただきます、引き続き「我がまち」幸手の特徴を活かした事業の実施に努めてまいります。</p>	無

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
4	41	<p>基本目標2施策1 幸手市の特徴を活かした観光振興 に、これらの資源を有機的につなげるにより、幸手市を訪れた人がまちなかの回遊を楽しむことができる基盤を充実させ、とある。このスローガンを掲げて久しいが、観光資源に十分な投資がされることなく、個人の所有権だけでは地域資源は確実に老朽化し、喪失されている。将来に向けて、何を有機的につなぐのか。投資対象として、何を観光資源として遺したいのかをまずは棚卸しすべきでは。また、歴史と食や職・自然などをつなげるストーリー性も乏しい中で、どれほどの戦略が打てるのか。ありきたりな言葉の羅列では戦略とは言えない。もっと戦略的にとらえるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【評価指標】は新機軸を打ち立てるべき。 特に、取組内容②市内回遊観光と市内経済効果のマッチングの評価指標として、消費につなげる「経済連携」を軸とした観光消費額や地元事業者の参加数などを追加すべきでは。 ・【取組内容】に、観光協会の法人化支援、観光資源の棚卸しと全体設計を追加する。 ・【取組内容】に、志手橋の意匠デザインの検討 を追加。 <p>※幸手市の観光資源を棚卸しし、行政は全体設計を部門横断的に行う。また、観光協会の法人化により、観光協会が観光資源の活用・運営主体として、より現場運営力や発信力を高めるための支援や、回遊・消費の仕組み定着を第3期戦略とする。棚卸しの結果、「地区計画」が必要であれば地域に呼び掛ける。そもそも、投資もなく「資源化」はできない。桜まつりで一番花や緑が少ないのが中心市街地であり、日光街道と言いながら、日光街道宿場町としての保存もほとんど投資して来なかった。せめて、今やるべきこととして、提案したいのは志手橋改修において、橋の意匠を「幸手宿の入口」に相応しいデザインとすることを県と協議することである。これは橋の着工前の今、やらないと将来にはできない行政課題だと認識する。時宜を逸することなく。取組を戦略として書き込んでほしい。</p>	<p>評価指標に新機軸を設けることについては、指標把握が容易で、施策の成果を測ることができる指標を引き続き検討してまいります。</p> <p>観光協会の法人化支援につきましては、観光協会の法人化設立及び設立後も継続した伴走支援は必須となることから、取組内容に追加することとします。</p> <p>観光資源の棚卸及び志手橋の意匠デザインの検討については、取組内容としての記載は見送りますが、引き続き関係機関と連携し、実施について検討してまいります。</p>	有

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
5	43	<p>基本目標2施策2 移住・定住の促進 の評価指標は、取組内容①②③を具体的に指標設定する。</p> <p>・第3期戦略は、特に空き家活用の移住促進モデル構築が不可避。新築物件だけでなく、既存住宅団地や農村地域の中古住宅をどう活用するか。本来は民間主導の経済活動ではあるが、地域コミュニティの維持は自治体の役割である。しっかり、具体的に指標を管理して、幸手市での暮らしが安心・安全に継続されるよう、また、その取組の方向性と成果が市民にも見えるよう取り組んでほしい。また、人口減少地区をフォーカスしてモデル事業を推進するなど、地域への配慮が必要である。どこの地域でも「子どもの声が響くまちづくり」を住宅政策や空き家対策で実現してほしい。例えば、【評価指標】は、</p> <p style="margin-left: 40px;">補助金を活用した移住・定住件数 空き家を活用した移住支援件数 移住促進PR・会社従業員への住宅斡旋に係るセールス件数 〇〇地区モデル事業の実行 など</p>	<p>空き家活用については、現在の空き家バンク制度について、一層の周知を行い、より制度が活用されるよう取り組んでまいります。</p> <p>なお、当該施策については、KPI及び取組内容を見直し、修正することいたします。</p>	有
6	45	<p>合計特殊出生率については、現状の0.89から1.24へと、埼玉県（1.09）や全国（1.15）を上回る水準を目標として掲げている点は、前向きで評価できるものと考えます。</p> <p>一方で、その目標水準に対する施策内容を見ると、現行の取組の延長が中心となっており、この目標を達成できるだけの実効性が十分に示されているとは言い難いと感じます。</p> <p>既存の取組と新たに強化・導入する取組を整理し、何がどのように変わるのかを明確に示すことで、将来への期待や希望を持てる計画になるのではないのでしょうか。</p> <p>特に、出生率改善という成果指標に対し、それと因果関係の見えにくいKPIが中心となっている点については、見直しの余地があると考えます。若年世帯の定住や子育て環境の改善など、出生率の向上に結びつく過程を捉えた指標の設定について、改めて検討されることを要望します。</p>	<p>合計特殊出生率の改善は、単一の事業に取り組むことで成果が得られるものではなく、各施策に記載された取組を着実に実施した結果、達成されるものと考えております。</p> <p>今回の計画では、第2期計画と比較して新たな取組も盛り込んでおり、これらについては毎年振り返りを行い、適宜見直しを図ってまいります。</p> <p>目標達成に向けて、代表的な取組みとして設定したKPIに加え、各施策の進捗管理を徹底し、総合的かつ効率的に取組みを進めてまいります。</p>	無

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
7	47	<p>施策2 子育てしやすい環境の整備</p> <p>・【評価指標】に、保育所待機児童数 0以下とある。これまで幸手市は民間保育所や企業内保育などもあり、待機児童「0」で推移しているが、今般の年収の壁見直しにより、子育て世代の就労時間等が拡大することも想定される。そのような時世の変化に先んじて対応できるよう、各取組を進めていただきたい。ファミサポはセンター職員のきめ細かな対応で多くの依頼に対応されているが、協力会員の登録増員にもしっかりと取り組んでいただきたい。</p> <p>また、多子世帯においてはできる限り同じ保育所に通園できるよう、また、駅前保育ステーションも常に需要やニーズの把握に努め、子育てと仕事の両立ができる環境づくりを戦略的に進めていただきたい。</p>	<p>保育所運営につきましては、延長保育、障害児保育、一時保育などの様々な保育サービスを提供し、保護者の多様な保育ニーズに対応してまいります。</p> <p>ファミリー・サポート・センターにつきましては、市の広報紙やホームページへの掲載に加え、他団体のボランティア研修会等でのチラシの配布や、依頼会員の方への声掛けなどを行い、今後も協力会員を増やす取り組みを継続してまいります。</p> <p>また、子育て支援コーディネーターによる子育てや保育等の相談を通じて、子育て世帯のニーズを把握し、必要とされる環境づくりについても検討してまいります。</p>	無
8	48	<p>基本目標3 指標3 教育環境の充実と学力の向上は、第2期において、【評価指標】主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の推進の達成度が未達成であったことは深く・重く受け止めるべきである。その受け止めから鑑みたとき、アフタースクール参加人数が指標として残存しているのは見直すべきと考える。</p> <p>以前より訴えているが、この事業は開始より10年が経過。市独自の財源を投ずるこの事業は、時代の変化に沿って変幻自在に取組内容を見直していくことが可能である”柔軟性”をを最大限生かしていくべきである。今の社会の要請は、自学力の養成にある。さらに英語やデジタルなど人材と財源を必要とする教育分野は変化している。自学力を修身することこそ人生の基盤である。デジタル教材も充実している。自分の進度に合わせて教材を選び自学していく力をどう養成するか。改めて検討されてはいかか。そして、この事業に配分されている教育財源はなくすのではなく、すべての児童が対象とならない放課後のアフタースクール事業から、すべての児童を対象とする日課を充実させ学力保障は日課の中で。戦略的見直しで取組と資源配分の転換を。</p> <p>・【評価指標】さってアフタースクール参加人数 削除 ・【取組内容】実施を削除。財源と人材は、別件取組に投資されることを求める。</p>	<p>アフタースクール事業は、主に学習に対して抵抗感を感じている児童に対して、質の高い講師の指導により、学習の定着を図り、学ぶ楽しさを味わわせ、主体的に学習に取り組む態度を育む役割を果たしてまいりました。</p> <p>しかしながら、ご指摘のとおり、自学力の育成やアフタースクールに通っていない児童への学力保障という面では、検討の余地があると考えます。</p> <p>アフタースクール事業については、その財源を読解力向上等に係る事業拡充に充てるなど、今後の方向性を検討することとし、評価指標・取組内容共に削除することといたします。</p>	有
9	52	<p>・【評価指標】公園施設長寿命化は現在どの計画に位置付けられ、整備が進められているのか。子どもたちが安全に遊具で遊べる環境整備はできるだけ早く100%になるよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>市内の公園は、「幸手市公園施設長寿命化計画」に基づき整備を進めております。</p> <p>引き続き、施設利用状況や周辺環境の変化等を調査し、適宜計画の見直しを行いながら、計画的な更新を行ってまいります。</p>	無

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
10	52	<p>・【評価指標】西口仮換地指定進捗率は、予算配分が厳しい折ではあるが、住民の生活設計や相続等に影響しないよう速やかに進捗されるよう取り組まれたし。</p>	<p>国の交付金等の財源確保に努めるとともに、財政状況を鑑みながら事業を進めてまいります。</p>	無
11	52	<p>・【評価指標】公共交通は、市が運行する公共交通の満足度だけでなく、利用別利用者数を追加すべきである。</p> <p>公共交通の目標設定については現在8.1%の満足度をどのようにして70%に高めていくのか。通勤通学者を含まず達成の見込みか。達成の道筋も分からない。第2期戦略の未達の要因は分析したか。残念なのは、令和9年1月からの新運行計画作成は、住民を当事者として利用を拡大させるような意識づけも、さらに、潜在需要の調査もアンケートのみ、新たな組織体も構築せず、という戦略としては貧弱と言わざるを得ない環境で作成された。もちろん、新しい枠組みを運用するにはハードルもあると思うが、そのハードルをそのままにして施策や戦略はアップデートしない。大いに遺憾である。市民が参加する在り方検討会や法定協議会が決定したものを今さらに覆すのは困難と認識するが、高額な予算を配分し提供する公共交通は、新時代サービスとして、もっとアップデート・昇華させていかなければ満足度の向上はないと考える。満足度だけでなく利用者数も本戦略の評価指標に。</p> <p>・【取組内容】公共交通の市民ニーズを考えるにあたって、市の最上位計画である総合振興計画の、公共交通の利用対象の位置付けが、“高齢者の足”と極めて狭義・限定的となっている。これについては、折々に意見として、通勤通学者も含むもう少し広義の位置付けをと見直しを指摘したが却下された経緯がある。今後の幸手市のまちづくりや家族世帯の移住・定住政策、自家用車を持たない若者や駅利用者の公共交通の満足度upには、総合振興計画の位置付けの見直しも不可欠である。そのような事情も鑑み、取組内容の表記には、満足度を向上させる今できる最大限の内容をより具体的に記載すべきである。</p> <p>例として、 公共交通を新規に利用した人数 利用対象拡大の検討 通勤通学者へのサービス提供の検討 など</p>	<p>令和6年3月に「幸手市地域公共交通計画」を策定し、「幸手市地域公共交通会議」や「幸手市地域公共交通あり方検討会」において、令和9年1月からの市が運行する公共交通について検討を重ねているところです。</p> <p>より多くの市民に御利用いただけるよう、今後、運行開始に向けて積極的に周知を図っていき、利用方法などに関するお問合せにも丁寧に対応してまいります。</p> <p>評価指標の設定につきましては、本戦略では、普段あまり公共交通を利用しない方を含めた、広い意味で市民全体の公共交通に係る客観的な評価を把握する観点から「市が運行する公共交通の満足度」を評価指標として設定することといたしました。</p> <p>なお、第2期の振り返り結果については、意見No.1に記載のとおりです。</p> <p>また、総合振興計画における公共交通の位置づけにつきましては、次期総合振興計画基本計画策定時に改めて検討いたしますが、取組内容に記載された内容だけでなく、満足度を向上させる取り組みができないか、幅広く検討してまいります。</p>	無

「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」パブリックコメントに対する回答（案）

意見 No.	ページ	意見	市の回答	修正 有無
12	53	<p>施策3 生涯を通じた健康と生きがいづくりの支援</p> <p>市の子育てや健康増進、社会福祉などの施策に信頼を寄せるものである。今後も時代の変化に柔軟に対応いただくようお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【評価指標】について、表の並び順はどのように決められたのか。 <ul style="list-style-type: none"> 体育施設の利用率 健康寿命（男性） 健康寿命（女性）と並んでいるが、 体育施設の利用率より先に、健康寿命指標を置くべきではないかと感じる。検討を。 	<p>評価指標の並び順につきましては、各指標の妥当性を評価しており、原則としてその評価点数の高い順に並べております。</p> <p>健康寿命（男性・女性）について、妥当性の評価を見直し、さらに当該施策との関連度を鑑み、評価指標の並び順を変更することといたします。</p>	有
13	-	<p>以上、いろいろな意見を申し述べましたが、今回の意見を提出するにあたり、私としては、時代の変化に負けない＝施策のアップデート＝行政施策がされた戦略であるかどうかを第一の視点としま</p> <p>これからの5年は、日本全体、社会全体、国際社会まで含めて変化の時代を迎えます。幸手市がどう生き残っていくのか。勝負の期間とも言えるでしょう。持続可能な財政運営と、市民への安定的かつ効率的なサービス提供を、市民の理解をいただきながら進めていく。以前、総合政策部長がおっしゃっていたように、これからの行政マンは、事務執行を確実に行うのは当然ながら、「みんながセールスマン」であるとの認識で戦略的に仕事に取り組んで行くことが求められ、また、その中にやりがいや達成感を持てるような職員、研修が不可避となるでしょう。</p> <p>新しい時代に即した変化も含め、アイデアを出し、意見を具申し、仕事を楽しめる戦略的施策の展開、職場環境の構築に期待しています。頑張ってください。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、本戦略で目指す「若者の定住促進」「少子化・子育て対策」「情報発信」に関する取り組みを着実に実施してまいります。</p>	無